

令和4年度第1回

富士見市史跡水子貝塚保存整備委員会

議事録

日時	令和4年9月7日（水）		開会	午後2時00分		
			閉会	午後4時00分		
場所	富士見市立水子貝塚資料館					
出席者	委員	阿部委員	岩村委員	佐々木委員	大島委員	佐々木委員
		○	○	○	○	○
		井上委員	鈴木委員	古澤委員		
		○	○	○		
	オブザーバー	文化庁第二課 浅野文化財調査官 埼玉県教育局文化資源課 尾崎主事				
事務局	水子貝塚資料館 和田、隈本、齊藤					
公開・非公開	公開（傍聴者なし）					
議題	<p>○委嘱状交付</p> <p>1 開会</p> <p>2 委員紹介</p> <p>3 委員長及び副委員長の選出</p> <p>4 議題</p> <p>（1）史跡水子貝塚保存整備委員会について</p> <p>（2）史跡水子貝塚保存活用計画について</p> <p>（3）策定スケジュールについて</p> <p>（4）その他</p> <p>5 現地視察</p> <p>6 その他</p>					

議 事 内 容

1 開会 水子貝塚資料館長

2 委員等紹介 事務局

3 委員長及び副委員長の選出

互選により、委員長阿部委員、副委員長は岩村委員に決定

4 議題

(1) 史跡水子貝塚保存整備委員会について

委員長 事務局から説明を求める。

事務局 (資料に基づき説明)

(質疑等なし)

(2) 史跡水子貝塚保存活用計画について

委員長 事務局から説明を求める。

事務局 (資料に基づき説明)

委員長 質疑等があれば伺いたい。

委 員 計画策定にあたり、章立てや内容は他の史跡でも同様なのか。

事務局 基本的な記述内容は決まっており、他の自治体の事例を参考に作成した。ただし、保存活用計画は史跡指定された当初に策定するもので、用地の取得や整備、活用の指針とするものである。水子貝塚は既に整備が完了していることから、それをふまえた内容としている。

委 員 縄文時代の貝塚を伴う集落全域が保存されているという水子貝塚の本質的価値は現在も変わらないが、整備後の研究で新たな成果や再整備の具体的な構想は事務局にはあるのか。

事務局 新たな成果として土器からエゴマの痕跡が多数発見されており、栽培されていた可能性が高い。こうした成果も取り入れたいと考えているが、再整備の全体構想は未定である。

委 員 水子貝塚単体ではなく、他の文化財とネットワークを構築して観光資源として活用することも必要と考える。また、市民の身近な存在としてここにあることに意味があるので、史跡としての基本的な価値を理解した上で多角的な利用を考える必要もある。

委 員 地域全体が博物館というジオパークの概念をふまえ、水子貝塚を中心に原始古代を学ぶネットワークがあるとよい。

委 員 縄文海進時に奥東京湾沿岸に縄文人が居住したが、その中で水子貝塚は重要である。ムラをつくり定住をはじめ、野生のダイズやアズキなどの資源利用をはじめた時期である。貝塚があることから貝ばかり食べていたという印象があるが、実際は他のものを主食としていた。縄文人の暮らしを総合的に理解できるようにしたほうがよい。

委員 水子貝塚公園にはマテバシイなどが多数植樹されているが、縄文時代の東日本にはなかった。縄文時代の森の正しい景観にする必要がある。

委員 庁内の公園担当課との調整は必要ないのか。

事務局 条例上都市公園とは別の扱いのため特別な調整は必要ないが、庁内に推進委員会を設置しており関係課とは連絡調整を図りながら策定を進める。

(3) 策定スケジュールについて

委員長 事務局から説明を求める。

事務局 (資料に基づき説明)
(質疑等なし)

5 現地視察

6 閉会